

2021年3月期 第2四半期 業績概要

窪田 顕文
アンリツ株式会社
取締役
専務執行役員 CFO
2020年10月29日



東証第1部：6754
<https://www.anritsu.com>



Anritsu
envision : ensure

(ノート部記載なし)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

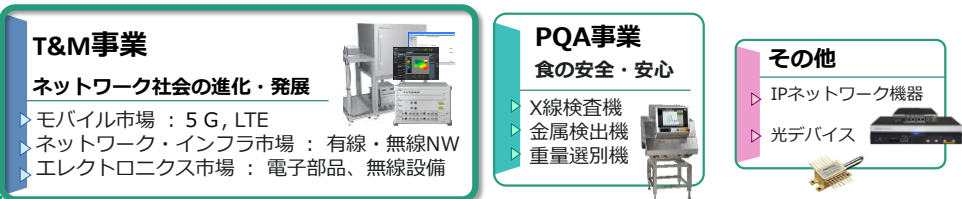
(ノート部記載なし)

目次

- I. 事業概要
- II. 2021年3月期第2四半期 連結決算概要
- III. 2021年3月期 通期業績予想（連結）
- IV. 5Gの市場トレンドと当社の取組について

（ノート部記載なし）

I. 事業概要



(セグメント別売上比率) 2020年3月期 実績(連結) : 1,070億円

T&M 70%			PQA	その他
モバイル 56%	ネットワーク・インフラ 25%	エレクトロニクス 19%	21%	9%

(T&M事業 地域別売上比率)

日本 22%	アジア他 44%	米州 22%	EMEA 12%
-----------	-------------	-----------	-------------

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

(セグメント別売上比率) 2021年3月期 (4月～9月)実績(連結)

T&M: 72%			PQA	その他
モバイル	ネットワーク・インフラ	エレクトロニクス		
58%	27%	15%	20%	8%

(T&M事業 地域別売上比率) 2021年3月期(4月～9月)実績

日本	アジア他	米州	EMEA
15%	52%	21%	12%

Ⅱ - 1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比増収、増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	536	540	4	1%
売上高	498	522	24	5%
営業利益	66	98	32	48%
税引前利益	64	97	33	53%
当期利益	47	71	24	51%
当期包括利益	34	71	37	111%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

グループ全体の受注高は前年同期比1%増の540億円、売上高は前年同期比5%増の522億円となりました。営業利益は前年同期比48%増の98億円となりました。
当期利益は前年同期比51%増の71億円、当期包括利益は71億円となりました。

Ⅱ - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

➡ T&M：5G商用化、データセンター需要が順調で増収増益

PQA：新型コロナウイルスの影響で減収も増益 (単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	当第2四半期 連結累計期間 (4-9月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
T&M	売上高	352	375	23	7%
	営業利益	59	90	31	52%
PQA	売上高	107	104	△3	△3%
	営業利益	5	7	2	53%
その他	売上高	39	43	4	8%
	営業利益	7	5	△2	△21%
調整額	営業利益	△4	△4	0	-
合計	売上高	498	522	24	5%
	営業利益	66	98	32	48%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

T&M: Test & Measurement PQA: Products Quality Assurance

Anritsu envision:ensure

6

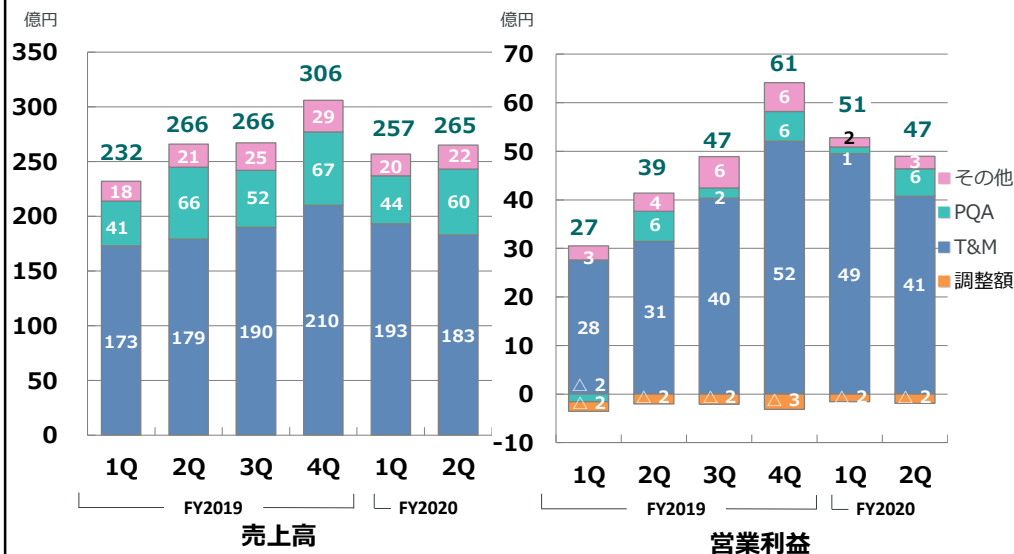
Financial Results FY2020 2Q
Copyright © ANRITSU

T&M事業においては、5G商用化とデータセンター関連需要により、前年同期比で増収増益となり、売上高は7%増の375億円、営業利益は52%増の90億円（営業利益率24.0%）となりました。

PQA事業は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う先行きの不透明感から一部の顧客の設備投資に慎重な姿勢が見られ、売上高は、前年同期比3%減の104億円の減収となりましたが、業務の効率化を促進する等、販管費の削減に取り組み、営業利益は前年同期比53%増の7億円（営業利益率6.8%）の増益となりました。

Ⅱ - 3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

➡ 2Q(7-9月)営業利益率：連結18%, T&M22%,PQA10%



第2四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

連結	47億円（営業利益率：17.9%）
T&M	41億円（営業利益率：22.2%）
PQA	6億円（営業利益率：9.5%）

Ⅱ - 4. 事業別営業概況

セグメント 2021年3月期（4月-9月）の状況	
 T&M ：5G商用化スケジュールおよびデータセンター高速化が順調に進展	
モバイル	5G開発の需要が順調に推移
ネットワーク インフラ	データセンター等への投資が拡大
アジア他・日本	5G商用化に向けた投資拡大
米州	5Gサービスの今後のエリア拡充に注視
 PQA ：食品市場では新型コロナウイルス感染拡大に伴う先行きの不透明感から一部の顧客が設備投資に慎重な姿勢	

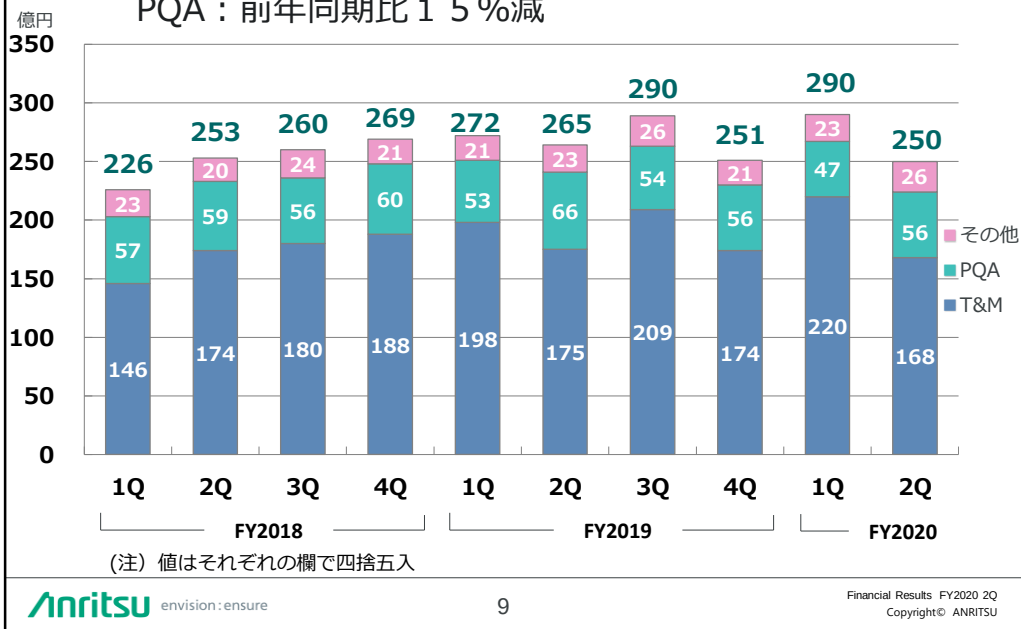
T&M：Test & Measurement PQA：Products Quality Assurance

（ノート部記載なし）

Ⅱ - 5. 受注高推移

➡ T&M：前年同期比 4 %減

PQA：前年同期比 1 5 %減



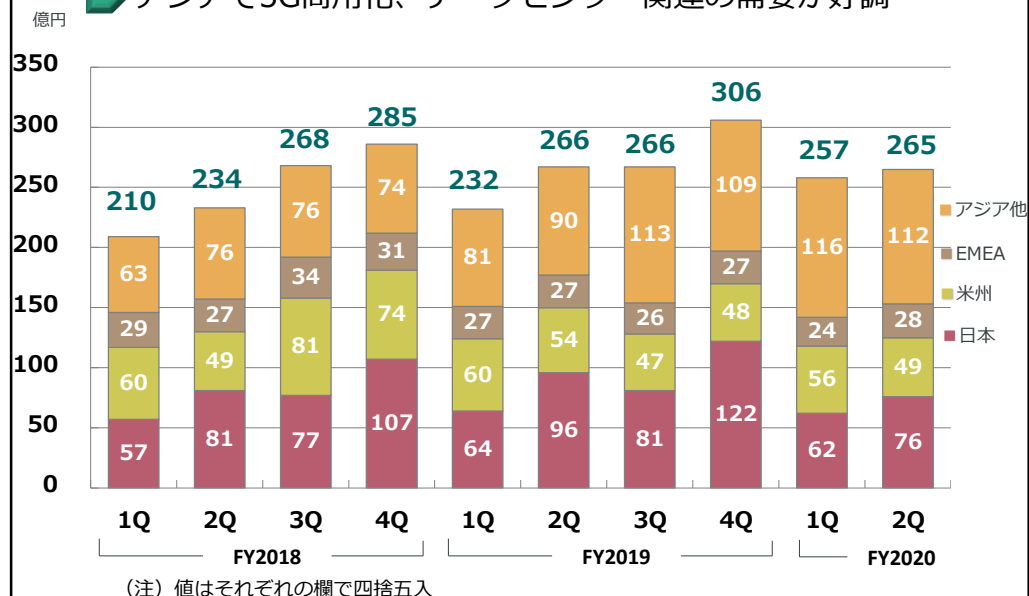
T&M事業の第2四半期受注高は、新型コロナウイルスの感染拡大の経済環境の下でも、前年同期比7億円（4%）減の168億円に留まりました。

PQA事業の第2四半期受注高は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う先行きの不透明感から一部の顧客の設備投資に慎重な姿勢が見られ、前年同期比10億円（15%）減の56億円となりました。

なお、受注残高はグループ全体で236億円（前年同期比7%減）、T&M事業では165億円（同6%減）、PQA事業では49億円（同16%減）でした。

Ⅱ - 6. 地域別売上高推移

➡ アジアで5G商用化、データセンター関連の需要が好調



(ノート部記載なし)

Ⅱ- 7. キャッシュフロー

➡ 営業CFマージン率25.6%

内訳

(単位：億円)

FY2020 2Q

- ①営業CF： 134億円
- ②投資CF： △ 25億円
- ③財務CF： △112億円

フリーキャッシュフロー

(①+②)： 108億円

現金同等物期末残高

472億円

有利子負債高

66億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

その他	22*
売上債権	49
減価償却	25
税引前利益	97
棚卸資産	△17
税金	△30
仕入債務	△12
設備投資	△14
その他	△11
社債償還	△80
配当金	△27
その他	△5
営業CF	134
投資CF	△25
財務CF	△112

*その他の主な内容：前受金、預り金など

営業キャッシュフローは、134億円の資金獲得となりました。
投資キャッシュフローは、25億円の支出でした。
その結果、フリー・キャッシュフローは108億円の資金獲得となりました。
財務キャッシュフローは、112億円の資金支出となりました。主なものは、社債償還80億円、配当金の支払い27億円（期末配当分1株20円）です。
以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より4億円減少の472億円となりました。

Ⅲ. 2021年3月期 通期業績予想（連結）

➡ 4月27日の公表値から変更なし

（単位：億円）

		2020/3期	2021/3期		
		前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高		1,070	1,100	30	3%
営業利益		174	175	1	0%
税引前利益		172	175	3	2%
当期利益		134	135	1	1%
T&M	売上高	752	770	18	2%
	営業利益	151	155	4	2%
PQA	売上高	226	240	14	6%
	営業利益	13	18	5	40%
その他	売上高	93	90	△ 3	△ 3%
	営業利益	19	12	△ 7	△ 37%
調整額		△ 9	△ 10	△ 1	-

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入

（参考）FY19 為替レート : 1米ドル109円、1ユーロ=121円
FY20 想定為替レート : 1米ドル105円、1ユーロ=120円

Anritsu envision:ensure

12

Financial Results FY2020 2Q
Copyright © ANRITSU

2021年3月期の通期業績の見通しは4月27日の公表値から変更はありません。

新型コロナウイルス感染症の収束時期が未だに不透明な状況の下、新型コロナウイルスの感染拡大防止と社会経済活動の両立を図るため様々な取り組みがなされております。

当社グループでは、感染防止策や新常態への取り組みを実践し、事業への影響を最小限に抑えるべく努めています。

なお、下期の見通しにつきましては、現在の感染状況が緩やかに改善されることを前提としております。

今後の新型コロナウイルス感染拡大の状況や収束時期によっては、経済活動の停滞が更に長期化するなど、当社グループの業績へ新たな影響を及ぼす可能性があります。

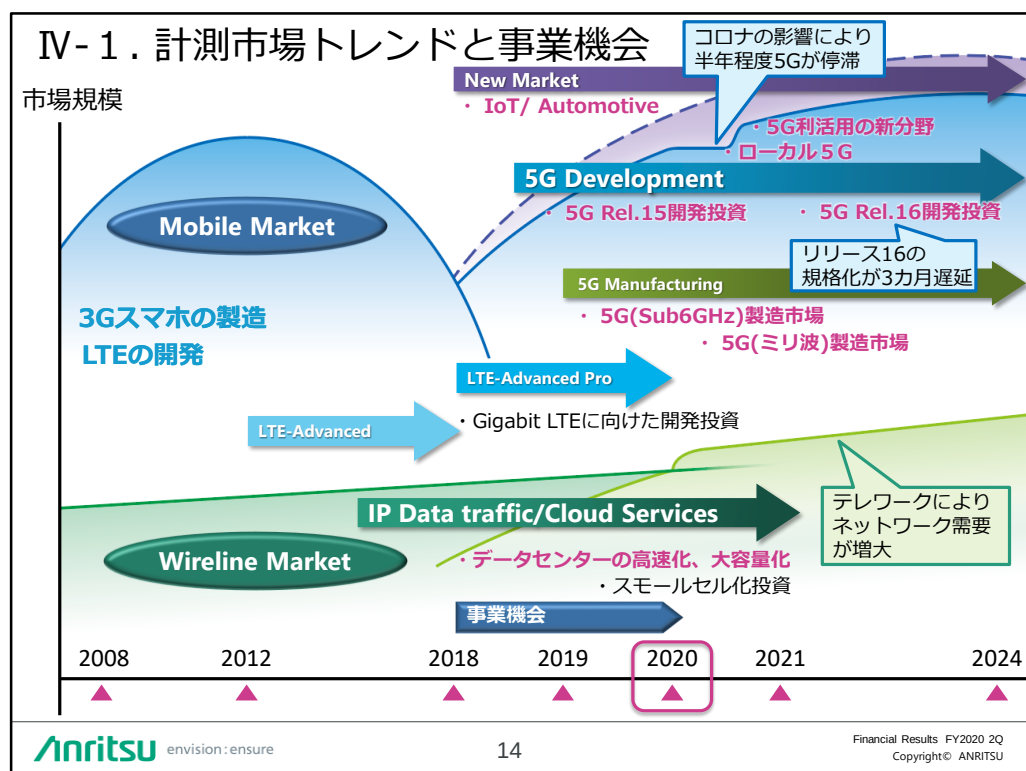
引き続き事業に与える影響を慎重に見極め、今後、開示すべき重大な影響が見込まれる場合には速やかに公表します

IV. 5Gの市場トレンドと 当社の取組について

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

濱田 宏一

(ノート部記載なし)



新型コロナウイルスの影響により、多くの国で経済活動の停滞が続いています。

モバイル計測市場も例外ではなく、5Gのサービス展開に関してもスローダウンしている地域が多くあります。

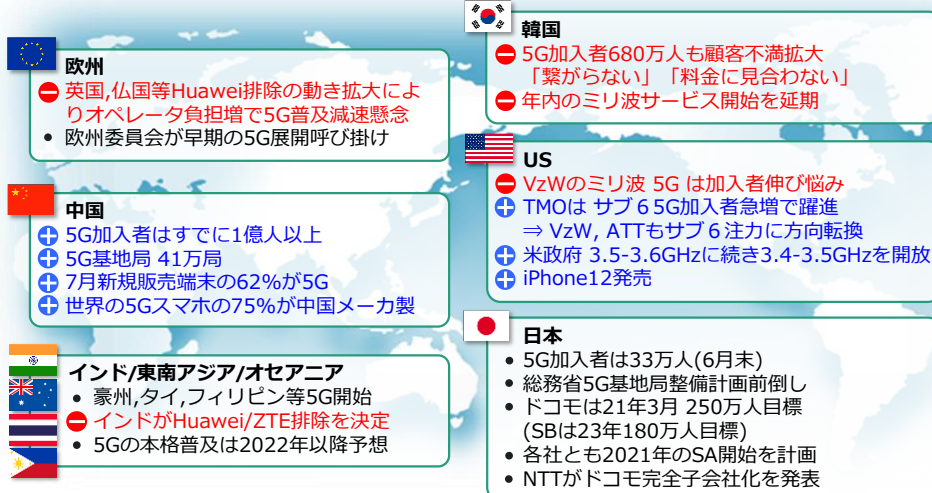
これらの地域でも、新型コロナウイルスの感染が落ち着くことで、5Gサービスの展開やネットワークの拡充が再開され、遅れを取り戻すように加速されると想定しております。

IV-2.世界の5G状況

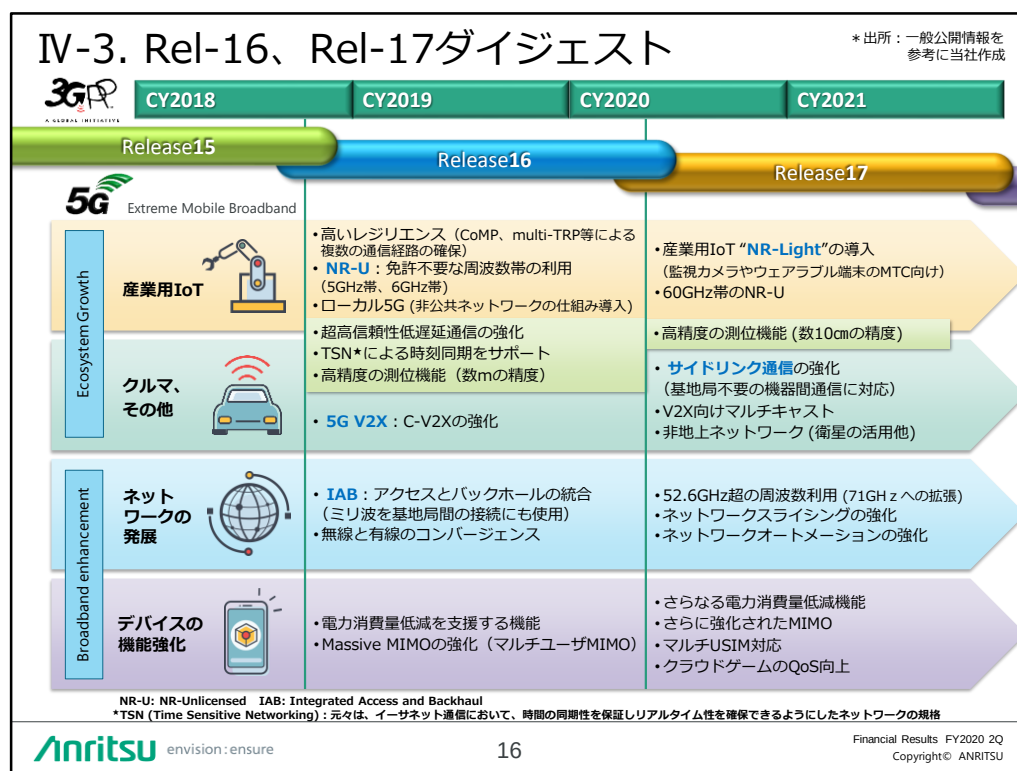
* 出所：一般公開情報を
参考に当社作成

- ・中国先行が鮮明に
- ・米中貿易摩擦の影響で欧州市場の5Gが減速の懸念
- ・ミリ波の技術的課題により韓国が減速の懸念
- ・アメリカはサブ6に方針転換で追い上げ

2020/10時点



(ノート部記載なし)



リリース16と17のそれぞれの特徴について説明します。

現在サービスインしているリリース15では、基本となる周波数帯域としてSub 6GHz帯域とミリ波帯域を使用することや、高速通信を実現するための仕様などが策定されました。

リリース16では、産業用IoT (IIoT) としての活用を促す機能や仕組みが盛り込まれました。

幅広い地域をカバーする公共ネットワークだけではなく、工場や倉庫内などの特定の施設や地域独自に閉じた非公共ネットワーク (NPN: non-public networks) を構築できる仕組みや、免許不要な周波数帯での運用に関する仕様、さらにそのような領域内にあるモノをリアルタイムで制御するための時刻同期機能や高精度の測位機能、それらを実現するための低遅延通信の仕様などが策定されています。

加えて、それらをネットワークの構造として支える無線アクセスとバックホールの統合や無線ネットワークと有線ネットワークのコンバージェンスの仕様が決められ、デバイスの省電力のための機能も盛り込まれました。

2022年に規格化が控えているリリース17では、小規模向け産業用IoTとして“NR-Light”の仕様策定やそれを支えるための測位機能のさらなる高精度化の検討、サイドリンク通信の強化やV2X向けマルチキャスト機能などが検討されてます。さらにネットワーク構造としてネットワークスライシングやネットワークオートメーションの強化があり、デバイスの省電力化の強化も検討されています。

IV-4.ローカル5G

日本ではローカル5Gとして新たに導入され、海外ではプライベートLTEの発展形として期待される。



AGV: Automatic (Automated) guided Vehicle

引用：ローカル5G検討作業班 報告書付子案 総務省 総合通信基盤局電波部 移動通信課

Anritsu envision:ensure

17

Financial Results FY2020 2Q
Copyright © ANRITSU

ローカル5Gとは、3GPPリリース16で導入された非公共ネットワーク（NPN：non-public networks）を活用して通信環境を構築する総務省策定の制度です。

海外では4Gの時代に同様の通信環境がプライベートLTEとして導入されており、リリース16の導入でプライベート5Gとして発展することが期待されています。リリース16では、産業用IoT（IIoT）の機能要件として、低遅延や時刻同期、高精度測位、低消費電力のための機能追加等が行われ、工場など幅広い領域での活用が期待される仕組みになりました。

IV-5.ローカル5G こんなところでアンリツが活躍

リモート操作の遅延測定

ロボットのリモート操作の為に遅延時間を測定



MT1000A ネットワークマスタプロ

基地局性能試験や通信エリア測定

通信エリアの電界強度測定



ML8780A/81A エリアテスタ



MS2840A/50A シグナルアナライザ

電波干渉の測定

ローカル5Gエリアの重複による電波干渉を測定



MS2090A フィールドマスタプロ

端末やセンサーモジュールの性能試験

端末やセンサーモジュールの無線特性、プロトコルを試験



MT8000A ラジオコミュニケーション
テストステーション

アンリツはローカル 5 Gの検証から導入、普及に“はかる”で貢献いたします。

- ・ ネットワークにおける遅延時間の測定：ロボットやドローン、クルマや重機などリモート操作される機器と制御端末との間の遅延時間の測定

- ・ 基地局電波の電界強度の測定：通信エリアの検証のための基地局からの電波の電界強度測定

- ・ 電波干渉の測定：基地局配置の最適化やエリア設計のための基地局間での電波干渉や地形による電波干渉の測定

- ・ 基地局や端末の性能試験：ローカル 5 Gの端末やセンサーモジュールなどのIoT機器の無線性能やプロトコル試験、基地局の無線性能試験



(ノート部記載なし)